

最貧困層居住区におけるジェンダーによる暴力の抑止プログラムとセーフティネットの構築（インド）（2014年～2019年）



地域コミュニティ全体でDVのセーフティネットを構築！

■ 実施団体：
地球市民ACTかながわ/TPAK

■ 対象国・地域：
インド国ウッタラーカンド州
デラドゥン県ヴィカースナガル郡
の10村

■ 現地カウンターパート
Mamta Samajik Sanstha (MAMTA)



■ 協力内容：
・女性に対する暴力が増加しているにもかかわらずセーフティネットが機能していないことを受け、対象村10村においてジェンダーによる暴力抑止のためのセーフティネットの構築およびその機能の支援。
・村の女性団体の活動支援のみならず、コミュニティーの有力者や男性に理解を広める啓発活動を行い、女性団体を支援する男性協力者の集まりを各村に組織。住民たちと協力して一次避難所を各村に設置した。

■ 団体のこれまでの取り組み：

・タイ・ミャンマー・インドなどの少数民族居住地域や貧農村部などの支援や情報が行き届かない地域を対象として、教育支援、衛生・栄養・健康キャンペーン、女性の自立のためのプロジェクトなどの事業を実施するなど、20年以上に亘る協力活動を実施。

■ 事業実施の背景：

・対象地域は非常に厳しい経済状態にあり、貧困や抑圧によるストレス等によって、男性からのDVで女性が被害者となるケースが多くみられる。また、女性に対する暴力の原因や社会的背景、被害を受けた場合の対応などについて女性たちに知識はなく、男女ともに女性への暴力が犯罪であることを理解していないことから本事業が実施された。

インド国の課題と成果

- 課題①** 村の女性がDV被害に遭っても、相談や助けを求めに行くことができない。
- 成果①** 村の女性団体のメンバーがDV被害者の相談にのり、村の有力者の協力を得ながら介入し、問題解決に取り組むことができるようになった。解決できない場合は、避難施設、もしくは警察や女性委員会等公的専門機関に繋ぐといった取り組みができるようになった。
- 課題②** DVによる被害を他人に話すことはタブーとされており、男女ともに女性への暴力が犯罪であるという意識が低い。
- 成果②** 暴力を受けることは日常的で問題と認識していなかったが、問題であることを学んだといった声も聞こえるなど、住民のジェンダーに対する意識が向上した。
- 成果** DVに対する住民の意識向上およびセーフティネットの構築

日本への波及効果



国際理解の深化を通じてジェンダー平等がより身近なものに

- ・プロジェクトサイトで実施されたジェンダー平等ポスターコンクールの入賞作品を横浜各地で展示。中高生を中心に高い関心が示された。
- ・横浜市でDV抑止や女性の人権を扱うNPO団体と共催でシンポジウムを実施。現地カウンターパートを交えて活動報告を行い、日本とインドで異なる被害者対応について意見交換を行った。
- ・上記活動が評価され、2018年に実施団体は横浜市男女共同参画貢献表彰を受賞。